

東京都公立大学法人

Tokyo Metropolitan Public University Corporation

経営企画室 寄附金担当
東京都新宿区西新宿2-3-1

TEL:03-5990-5389【受付時間】平日午前9時から午後5時まで

未来を担う人材育成のために
ご支援・ご寄附のお願い



東京都公立大学法人

Tokyo Metropolitan Public University Corporation



CONTENTS

東京都立大学……………P3	東京都立大学法人……………P9
東京都立産業技術大学院大学……………P5	寄附のお申込み／お支払い方法／ 寄附者への特典／税制上の優遇措置……………P10
東京都立産業技術高等専門学校……………P7	

MESSAGE

ご挨拶

平素より本法人の教育・研究活動に多大なるご理解とご支援を賜り、心から御礼申し上げます。

皆様には貴重なご寄附を賜わり誠にありがとうございます。賜りましたご厚志は、ご希望に沿い、様々な教育研究活動や学生の活動等に活用しております。

さて、本法人は2大学(東京都立大学、東京都立産業技術大学院大学)1高専(東京都立産業技術高等専門学校)を有し、第四期中期計画に則り取組を着実に進めています。

都立大学では2025年度から国際金融人材育成プログラムを開設し、既存の各学科への英語学位プログラムの導入と2028年度の国際系新学部の設置に向けた準備を開始しています。産業技術大学院大学では産業技術界の次世代に対応できるDXリーダーを養成する教育プログラムが文部科学省の補助事業に採択されました。また、産業技術高等専門学校ではDCON2024(注)において振り込め詐欺防止のシステム開発が最優秀賞に輝くなど、まさに社会課題の解決に資する取組として成果をあげています。(注)第5回全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト2024

日本が近年、スイスのIMD等の世界競争力ランキングにおいて評価を落とす中、東京は世界の主要都市の総合力を評価する「世界の都市総合ランキング2025」で初の2位と高い評価を得ており、まさしく日本経済の牽引者としての役割を果たしています。そして日本経済がようやく長いデフレを脱し、縮小型から成長型へと好循環に乗り始めた今、東京はその牽引者として一層の国際競争力強化を図っていく必要があります。東京には首都が有する集積の力と多様性という大きな強みがあり、ここから生まれるイノベーションの力が、世界における日本の位置づけを高める原動力となります。

本法人は、東京都が設置した「大都市における高等教育機関」として、その都市力を大いに活用し、国際競争力を高める人材育成と研究力強化に邁進していきます。

都立大学における国際系新学部の設置は、その礎子になります。日本人学生の海外留学及び外国人留学生をともに大きく増やし、互いに切磋琢磨し世界的課題に対処できるグローバル人材として成長する環境を整えていきます。また、世界を見据えた研究力のさらなる強化を図るため、外国及び日本の優秀な研究者が活躍できる環境も整えていきます。産業技術大学院大学及び産業技術高等専門学校では、内外の変化の激しい環境の下での産業界・金融界の課題やニーズに応えられる即戦力となる高度専門職人材やものづくりスペシャリストを育成するため、都立大学との一層の連携を図りつつ、私がこれまで培ってきたネットワークも駆使し、両業界とのコミュニケーションを活性化していきます。

私はこうした努力の積み重ねにより、本法人を、世界的課題を解決する新しい知を生み出し、その知を活かして世界で活躍できる人材を輩出する場所、日本及び東京をはじめとする社会の持続的成長を起し支える教育・研究のプラットフォームとして、社会に貢献していきたいと考えています。

今年度も皆様からのご寄附を募集しております。ご支援を通じて皆様の思いを学生や教員にお届けし、また、各校の未来を共に作っていただけるよう願っております。日本、東京の競争力強化に貢献できる人材を育成できるよう、引き続き、温かいご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。



東京都立大学法人 理事長
中山 泰男



東京都立大学は東京都が設置するただ一つの総合大学として、東京都や東京の人々とのつながりを大事にするとともに、教職員と学生や学生同士の距離が近いという利点を活かし、学問と研究を推し進めます。

ご挨拶

本学は、幅広い分野において基礎から応用までの研究を進め、人類の知を発展させることを重要な使命としています。学ぶことと研究することは人類が人類たることの拠り所であり、人類の知恵は困難を乗り越え、未来を開拓するためにこそ発揮されるべきと考えます。世界水準の高度な研究力と質の高い教育の好循環、また世界に伍し国際社会で活躍できる人材輩出を目指す国際化の強力な推進などに向けて、学生や教員のための教育研究活動を充実・強化するため、みなさまの温かいご支援をお願い申し上げます。

東京都立大学 学長 **大橋 隆哉**



寄附の種類 (2026年4月1日時点)

■ 学生支援 ■ 教育研究支援 ■ 特定プロジェクト支援

- | | | |
|----------------------------|---------------------|----------------------|
| ■ 学生海外留学支援基金 (修学支援基金) | ■ 学部生への奨学金 (修学支援基金) | ■ 大学院生への奨学金 (修学支援基金) |
| ■ 障がいのある学生の支援 (修学支援基金) | ■ 研究等支援基金 | ■ 学生寮の施設維持支援 |
| ■ 大阪公立大学・横浜市立大学 総合競技大会開催支援 | ■ みよこ祭開催支援 | ■ 青嶋祭開催支援 |
| ■ 運動施設の整備支援 | ■ 部室棟施設の更新支援 | ■ 課外活動安全整備支援 |
| ■ ボランティアセンター支援 | ■ 外国人留学生支援基金 | ■ 教育環境整備 |
| ■ 研究環境整備 | ■ 小笠原研究基金 | ■ 保育環境整備 |
| ■ 図書館支援 | ■ 牧野標本館基金 | ■ 大学に一任 |

そのほか、ご希望の寄附先がない場合は、ご要望に沿った形で受け入れさせていただきます。修学支援基金と研究等支援基金は、所得控除に加えて、税額控除を選ぶことができます。

寄附メニューの詳細はこちらからご覧いただけます。
<https://www.houjin-tmu.ac.jp/about/kifu/#tmu>



インタビュー

研究者の声

小笠原研究施設の維持管理、学生の研究活動にご支援を

■ 小笠原研究基金

東京都立大学は、小笠原に研究施設を持つ唯一の大学として、50年以上の小笠原研究の実績を持っています。固有種や希少種が数多く生息しているため、自然科学系の研究はもちろん、近年は人文社会系の研究も活発で、学生が研究を進める上でのフィールドワークのベース基地として小笠原研究施設は大きな役割を担っています。また、世界自然遺産である小笠原諸島の自然再生や外来種対策、エコツーリズム振興の施策等にも、貢献しています。

私の研究室では、小笠原諸島の水の循環、湧水について研究を進めており、小笠原研究施設を活用しています。最近では、島に残る古文書資料から19世紀の気象観測データを発見し、現在の気象データと経年比較することで島における降水特性を明らかにできました。今まで19世紀の気象データはほとんど確認されておらず、貴重な発見だといえます。



父島の気象観測装置

この先、小笠原研究施設の老朽化や台風被害によって、大規模な修繕が必要になる可能性があります。加えて、研究活動費はもちろん、学生たちにとっては小笠原諸島までの移動費の負担も大きいものとなります。これからも貴重な小笠原研究施設での研究活動を継続できるよう、皆様からのご支援をよろしくお願いいたします。

松山 洋 教授
 都市環境学部 地理環境学科
 都市環境科学研究科
 地理環境学域



都市環境学部 地理環境学科
 都市環境科学研究科
 地理環境学域

松山 洋 教授

貴重な標本をデータベース化し、未来に引き継ぎたい

■ 牧野標本館基金

東京都立大学・牧野標本館は、故牧野富太郎博士が収集した植物標本を中心に、藻類・コケ・シダ・裸子・被子植物など約50万点の植物標本を所蔵しています。これらの標本は、植物分類学や生態学などの自然史研究や郷土研究・教育に広く活用され、標本に関する情報提供とともに、国内外の研究者による閲覧や貸出などの要望にもできる限りお応えしています。しかしながら、標本は非常に壊れやすく、実物標本の閲覧は取扱に精通した研究者に限られるほか、貸出についても、輸送時の破損や紛失の恐れがあるため、制約があります。

貴重な標本を未来に繋ぐとともに、より広範な利用を促進するため、当館では所蔵標本をデジタル化して当館ホームページで公開する活動を進めてきました。これまでは旧式の撮影装置を用いていたため、デジタル化に非常に時間を要しましたが、昨年度いただいたご寄附を活用し、短時間で高精細標本画像を撮影出来る装置を導入することができました。皆様のご厚意に心より御礼申し上げます。今後はさらに専属の標本撮影スタッフを雇用して、より多くの標本をデジタル化するとともに、より使いやすいWeb閲覧システムに改善したいと考えています。引き続きご支援をどうかよろしくお願いいたします。



新たな標本撮影装置

加藤 英寿 助教
 理学部 生命科学科
 理学研究科 生命科学専攻



理学部 生命科学科
 理学研究科 生命科学専攻

加藤 英寿 助教

社会人類学研究に必要なフィールドワークの渡航資金に

■ 大学院生への奨学金 (修学支援基金)

私は、社会人類学研究室に所属し、韓国のオルタナティブスクールについて研究しています。オルタナティブスクールとは、生徒の個性や主体性を尊重した学びを基本とする新たな選択肢の学校です。韓国では、「良い大学へ進学し、大手企業へ就職することが成功」という価値観が色濃く残っていますが、その主流の価値観とは異なる教育を志向するオルタナティブスクールで、人々がどのように人生選択を行うのかに強く興味を持ったことがきっかけです。

社会人類学の特性上、フィールドワークは重要で欠かせないものですが、行う場所によっては、旅費や宿泊費などが高額になってしまうことが多く、私の場合は上述のフィールドワークのため、韓国への渡航資金として支援基金を利用させていただきました。博士前期課程に受けられる支援は少なかったため、まとまった支援を受けられるのは非常にありがたいことでした。



フィールドワークの様子

私が現地に滞在したのは2週間程度でしたが、多くの教育者や同年代の学生から話を聞くことができました。また、彼らを介してオルタナティブスクールの生活世界に触れたことは、非常に価値のある経験となりました。

私の将来の目標は、大学で研究を続けながら、大学で教鞭を取ることです。いただいたご支援のおかげで得られた貴重な経験を活かせるように一層努力し、将来は自分の研究を社会に還元していきたいと思っています。



人文科学研究科
 社会行動学専攻 社会人類学教室
 博士後期課程1年

学生の声

※所属や学年等は取材当時のものです。



AIT ADVANCED INSTITUTE OF INDUSTRIAL TECHNOLOGY 東京都立産業技術大学院大学

東京都立産業技術大学院大学は東京都が設置した専門職大学院であり、国内外の産業技術分野において活躍できる高度で専門的な知識・スキルと実務遂行能力を備えた高度専門職業人を輩出しています。

ご挨拶

本学は多様性と共創を重んじています。この多様性とは、学生みなさんの背景が社会人技術者・管理職、学部卒、企業経営者、スタートアップを志す方等の背景が多様なこと。本学が輩出するキャリアモデルの資質、知識、スキル、能力が学際的に多様であること。個々人の創造性、独自性、価値観が多様であること。これらを本学は受容した上で、多様な人材の融合が巻き起こす共創を原動力として、独自の教育研究と社会貢献を実施しています。さらに社会や環境そして人の価値観をより良く変えていける人材を本学から世に送り出し続けるべく、みなさまの温かいご支援をお願い申し上げます。



東京都立産業技術大学院大学 学長 橋本 洋志

寄附の種類 (2026年4月1日時点)

■ 学生支援 ■ 教育研究支援 ■ 特定プロジェクト支援

■ 修学支援基金

■ 教育環境整備

■ PBLプロジェクト支援

■ 研究環境整備

■ 大学に一任

そのほか、ご希望の寄附先がない場合は、ご希望に沿った形で受け入れさせていただきます。修学支援基金は、所得控除に加えて、税額控除を選ぶことができます。

寄附メニューの詳細はこちらからご覧いただけます。
<https://www.houjin-tmu.ac.jp/about/kifu/#ait>



インタビュー

INTERVIEW

研究者の声

意欲ある学生の要望に応えられる研究環境を

■ PBLプロジェクト支援

■ 研究環境整備

本学が進めるPBL型教育では、2年次の1年間で数名のチーム単位での研究にあてており、チームごとにプロジェクトを組み、テーマ決めから研究の進め方、発表までを行います。企業などで就労経験を持つ社会人学生が多いため、問題意識が高く、取り組みたい課題を明確に持っているのが特徴で、毎年新たなテーマのもと研究に取り組んでいます。

「IoTとAIを利用した生活の質向上に働きかけるシステムづくり」をテーマに掲げる私のゼミでは、「介護施設で書かれているインシデントレポートを映像から自動生成できるようにするシステム」や「作業現場や教育機関などで使えるカメラを活用した危険察知システム」など、現場での人手不足や高齢化などの日本社会のリアルな課題を反映したテーマに向き合う学生が多くおります。教員では考えつかない新鮮なテーマが出てくることもあり、学生・教員がフラットな関係に立って刺激的な議論が飛び交います。



演習の様子

学生たちの研究と接する上で悩ましいのは、集まる学生によってテーマが変わるため、予算が立てにくいことです。例えば、3月に学生の学会参加が急遽決まり、準備のための費用を工面することもありました。今までも多くのご支援に支えられてきましたが、修了後社会で即戦力として学びを還元する学生たちのために、ぜひ温かいご支援をお願いいたします。



創造技術コース 村越 英樹 教授

ものづくりの未来を支える学びの環境整備へのご支援を

■ 教育環境整備

企業でプロダクトデザイナーとして、多様な製品開発に携わった経験を基に、創造技術コースで学生を指導しています。これまで培ったエンターテインメントロボットの開発経験を活かし、学生とのプロジェクトでは、「人との豊かな共生を目指すパートナーロボット」のデザイン開発に取り組んでいます。

このプロジェクトでは、チームメンバー全員が必ずしもロボット設計や製作に必要な技術的知識やスキルを持つ必要はありません。一部のメンバーがハードウェア設計や制御システムの構築といった技術的な役割を担う一方で、他のメンバーは提案するロボットのコンセプトを策定し、そのアイデアを視覚化や言語化を通じて整理し、活躍の場面を具体的なシナリオとして構築するなど、創造的なプロセスに自由に取り組むことができます。多様な経験や視点が集まることで議論が深まり、学生たちは「豊かな未来の暮らし」を実現するためのデザインやものづくりに積極的に挑戦しています。このような環境は、本学ならではの理想的な教育の在り方と言えるでしょう。

現在、整備を進めたいと考えているのは、学生が自由に活用できるものづくり全般に必要なツールの充実です。学内ではこれらのツールを利用できますが、就労しながら通学する学生や、本学がオンライン授業を中心としている現状を踏まえると、自宅でも同様に利用できる環境を整備することが理想です。これは学生だけでなく、教員が安定した質の高い授業を提供するためにも欠かせません。本学は、社会で活躍する次世代の人材を育成するため、学生一人ひとりのポテンシャルを最大限に引き出す教育環境を目指しています。未来を支える学生たちの挑戦を後押しするため、学びの環境整備に向けたご支援を心よりお待ちしております。



自習室



創造技術コース 内山 純 教授

東京都立産業技術大学院大学が取り組む

PBL (Project Based Learning) 型教育とは

PBL型教育とは、実社会で即戦力として活躍できる人材を育成するために有効な教育手法であり、数名の学生が、明確な目標を掲げ、できるだけ実際の業務の内容に近い1つのプロジェクトを完成させていくプロセスの中で、**実社会で真に役立つスキルやノウハウを修得していく**というものです。

論文作成が修了要件となる通常の大学院と異なり、複数人のチームとしての取り組みであること、成果物だけでなくそのプロセスも評価の対象とすること、具体的なプロジェクトの成果発表となることなどが特徴です。本学では、**コンピテンシー(業務遂行能力)を実践的に身につける**ため、1年次に基礎的な知識、スキルを修得したうえで、主に2年次にPBL型教育を実施しており、修了に欠かせない要件としています。

※所属等は取材当時のものです。



Tokyo Metropolitan College of Industrial Technology 東京都立産業技術高等専門学校

東京において一貫したものづくり教育を担う高等教育機関として、都民や産業界のニーズに的確に応え国際的に活躍できる中核技術者の輩出を目指しています。

ご挨拶

本校は、「首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストの育成」を使命とし、早期の一貫した実践的な教育を行い産業界から高い評価を得てきました。一方、科学技術の急速な進歩と産業技術の高度化により、産業界においては、より高度な専門知識と技術・技能を兼ね備えた中核技術者が求められています。

こうした状況を踏まえ、都民や産業界のニーズに的確に応え、国際的に通用する工学教育の質の保証の追求、教育システムの改善を継続して行うために、みなさまの温かいご支援をお願い申し上げます。

東京都立産業技術高等専門学校 校長 **柴崎 年彦**



寄附の種類 (2026年4月1日時点)

■ 学生支援 ■ 教育研究支援 ■ 特定プロジェクト支援

■ 修学支援基金	■ 学生活動支援
■ 教育環境整備	■ 研究環境整備
■ 科学技術展示館基金	■ 高専に一任

そのほか、ご希望の寄附先がない場合は、ご要望に沿った形で受け入れさせていただきます。修学支援基金は、所得控除に加えて、税額控除を選ぶことができます。

寄附メニューの詳細はこちらからご覧いただけます。
<https://www.houjin-tm.ac.jp/about/kifu/#cit>



インタビュー

研究者の声

日本の航空技術の開拓史を学べる貴重な資料を残すために

■ 科学技術展示館基金

本校にて維持管理を行っている「科学技術展示館」では、日本航空協会から「戦後航空再開時の国産航空機群」として重要航空遺産の認定を受けた貴重な飛行機やヘリコプター、航空用エンジンなどが所狭しと並んでいます。展示物は、学生向けの授業にも活用されており、航空宇宙工学コースの学生にとっては、日本における航空技術の歴史を知るための重要な教材となっています。これらの貴重な教材は、本校荒川キャンパスの戦前の前身校から都立航空高専時代にかけて、当時の先生方のご尽力により受け継がれ、教育機関として全国唯一のものであります。

本来展示館をより多くの一般の方に公開していくべきなのですが、現在、展示館を運営している教職員が非常に少なく、人手が不足している状態で、公開日を限定しています。限られた予算では、機体の十分な整備や保全作業が行き届かず、展示館自体の老朽化も進んでいるため、展示館を学術・教養などに活かしていく構想はあっても、安全かつ快適に利用いただく準備がまだできていないのが現状です。



科学技術展示館

今後、まずは貴重な展示物の保全にさらに尽力するとともに、いつでもどこからでもご覧いただけるようデジタル化を進めたいと思っています。劣化の恐れがあり未公開となっている貴重な本や図面なども数多く所有しています。この日本有数のコレクションを持つ科学技術展示館を未来に残すために、ご支援をお願いいたします。



ものづくり工学科
航空宇宙工学コース
(荒川キャンパス)
科学技術展示館 館長

小林 茂己 教授

社会のニーズに合わせた技術や知識取得のための環境整備の充実を

■ 教育環境整備

■ 修学支援基金

本校では、基礎科目から実験実習など実践的な専門教育を5年間(専攻科進学の場合7年間)かけて学んでいきます。近年の科学技術の高度化や複合化、さらにグローバル化にも柔軟に対応できる人材育成のため、時代の変化に応じたコース再編を行っており、2021年にはAIスマート工学コースと情報システム工学コース、2025年には現電気電子工学コースから再編された電気電子エネルギー工学コースが誕生します。

私が所属するAIスマート工学コースでは、AIやIoTなどスマート化技術を活用したものづくりを中心に教えていて、研究室では水道管等の管内を検査するマイクロロボットの開発等も行っています。高専に進学する学生たちは、幼い頃からの興味・関心のまま勉強している学生が多いためか吸収が早く、機械や電子工学はもちろん、デジタル技術、AI活用技術を体験しながら意欲的に学んでいます。学校側もその意欲に応えられるよう、機材の導入や、研究室の増築などをその時々で行い、教育環境を整備しています。今後も学生たちへ安定した教育環境を提供し続けるため、今までご支援くださった企業様や多くの卒業生に感謝するとともに、未来を担う学生のためにさらなるご支援をお願いいたします。



スマートスタジオ

興味・関心のまま勉強している学生が多いためか吸収が早く、機械や電子工学はもちろん、デジタル技術、AI活用技術を体験しながら意欲的に学んでいます。学校側もその意欲に応えられるよう、機材の導入や、研究室の増築などをその時々で行い、教育環境を整備しています。今後も学生たちへ安定した教育環境を提供し続けるため、今までご支援くださった企業様や多くの卒業生に感謝するとともに、未来を担う学生のためにさらなるご支援をお願いいたします。



ものづくり工学科
AIスマート工学コース
(品川キャンパス)

大野 学 教授

アイデアと技術を駆使した高専ロボコンへの挑戦

■ 学生活動支援

私は、1年生から高専ロボコン研究部で活動していました。高専ロボコンは、毎年5月頃にルールなどが公開され、10月の地区大会まで仲間たちとロボットを完成させていきます。半年間の製作期間がありますので、授業や試験との両立には苦労しましたが、ロボット製作によって授業で学んだ知識や技術を自分のものとしてすることができ、仲間と協力することで新たな発想や気づきを得るなど、学びも多くありました。

毎年、ロボット製作で大きな壁となるのが、資金の調達です。製作費用に少しでも余裕があれば、質の良い素材を選んだり、3Dプリンターを複数機揃えて製作時間を短縮することができ、製作作業全体にも余裕が生まれたと思います。ロボット製作では、資金をかければかけた分だけ良いロボットを製作できますので、研究部で会計担当を兼務していた私としては資金面で頭を抱えることが多々ありました。そんな時に、研究部へ支援をいただくこととなり、大会では満足のいく成績を残すことができました。また僕らの活動を応援して下さる方々の存在は、非常に励みになりました。



高専ロボコンの様子

現在は専攻科1年で流体力学を中心に学んでいます。私が5年間没頭した高専ロボコンに、今後もチャレンジを続ける後輩たちを応援しながら、私自身は専攻科での学びを活かし、ものづくりの分野で社会に貢献したいと思っています。



創造工学専攻
機械工学コース 1年

※所属や学年等は取材当時のものです。



東京都公立大学法人

Tokyo Metropolitan Public University Corporation

東京都公立大学法人は、東京都が設置する地方独立行政法人で、2大学と1高専を運営し、各校の強みや特徴を活かしながら横断的な連携事業などを実施しています。

寄附の種類 (2026年4月1日時点)

■ 特定プロジェクト支援

■ カーボンニュートラル・ネイチャーポジティブ基金

■ 理事長に一任

そのほか、ご希望の寄附先がない場合は、ご要望に沿った形で受け入れさせていただきます。

寄附メニューの詳細はこちらをご覧ください。
<https://www.houjin-tmu.ac.jp/about/kifu/#houjin>



カーボンニュートラル・ネイチャーポジティブ基金

東京都公立大学法人では、日本の国公立大学としては初となる「気候非常事態宣言」と「ネイチャーポジティブ宣言」を発出するなど、高等教育機関の使命としてサステナビリティに関する取組を推進しています。

本法人では、これらに基づく各種取組と合わせ、研究成果を社会に還元していくなどの取組を一層推進し、環境報告書の公表を通じて、持続可能な社会の実現に貢献すべく、率先して取り組んでいきます。皆様からの温かいご支援をよろしく申し上げます。

これまでのカーボンニュートラル・ネイチャーポジティブに関する取組

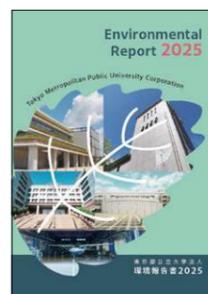


東京都公立大学法人

カーボンニュートラル等推進ロゴマーク



カーボンニュートラル推進プランの策定



環境報告書の公表

寄附のお申込み

オンラインでのお申込み方法

パソコン、スマートフォンから下記ホームページへアクセスいただき、お申込みをお願いいたします。



URL <https://www.houjin-tmu.ac.jp/about/kifu/#feature>

各ページの「寄附をする」のボタンからお申込みいただけます。

申込用紙でのお申込み方法

ホームページからダウンロードの上、下記お問合せ先へご送付ください。

ダウンロードはこちらから



URL https://www.houjin-tmu.ac.jp/about/kifu/how_to_donate/

<寄附金申込書>よりご希望の支援先それぞれの申込書をダウンロードください。



寄附ページトップの「寄附をする」ボタン



寄附メニューの「寄附をする」ボタン

継続寄附や遺贈寄附をご希望の場合は、下記お問合せ先にご連絡いただければ、申込用紙を送付させていただくことも可能です。



お問合わせ先

東京都公立大学法人

経営企画室 寄附金担当

【電話】03-5990-5389

【受付時間】平日午前9時から午後5時まで

お支払い方法

1 クレジットカード決済

ご利用いただけるクレジットカードはVISA/MASTER/JCB/AMEX/DINERSです。クレジットカードで寄附できる金額は1,000円以上・100万円以内です。

取扱カード



2 銀行振込

お申込み後、指定の口座よりお振込みいただけます。※恐れ入りますが、振込手数料をご負担くださいますようお願いいたします。

3 口座振替

ご指定の金融機関の口座から自動で引き落としが可能です。※インターネットバンキング以外の口座振替をご希望の場合は、オンラインにてお申込み後、申込用紙ダウンロードのURLをメールにてお送りいたします。ダウンロードした申込書を印刷、ご記入の上、当法人へ送付をお願いいたします。

寄附者への特典

顕彰制度

ウェブサイト「寄附者芳名録」にお名前を掲載いたします。また、寄附額に応じて、寄附者銘板にご芳名を記し、未永く顕彰させていただきます。※公表のご承諾をいただいた方のみ

詳しくは、ホームページをご確認ください。

URL <https://www.houjin-tmu.ac.jp/about/kifu/benefits>



税制上の優遇措置

本法人への寄附に対しましては、税制上の優遇措置が受けられます。

個人の方

2,000円以上の寄附をされた方は「所得税」と一部地域の「住民税」の寄附金控除を受けることができます。

法人の方

寄附金の全額を損金算入することができます。

詳しくは、ホームページをご確認ください。

URL https://www.houjin-tmu.ac.jp/about/kifu/tax_incentives/

